県外視察報告書　　　　　　　　　　　　田中貞男

日　程　令和元年７月２４日・２５日

視察先　川崎市（コミュニティ交通の取り組みについて）

　　　　藤沢市（カフェトークふじさわについて）「議会報告会」

令和元年７月２４日　川崎市（コミュニティ交通の取り組みについて）

　初めに川崎市で取り組んでいる全体の地域交通についての説明を受けました。市内には鉄道関係で６事業所の１２路線があり、バス事業については、６事業所が運行している。高齢化が進展して身近な駅等のアクセス向上や交通手段の確保が必要であることから、地域特性や市民ニーズを踏まえて充実が求められたことによって、交通政策室を設けての取り組みを行っている。私たちが注目しのは市内において、協議会が取り組んで行っていることでありました。

９地区の協議会がありそれぞれ地域にあった異なる運行方法で取り組んでいることでした。自治会が高台にあることから、バス路線までの道のりが厳しいことから検討されていた。

１　高石地区は、平成１６年に協議会設立を行い、試験運行１８年から２２年の間に２回実施し２３年から本格運行を行っている。

２　岡上地区は、平成２６年に協議会設立を行い、利用調査や一回目の試験運行を行い、２回目の試験運行を平成３０年度まで行った。

３　細山等地区は、平成２８年に協議会を設立して、協議をおこなっている。

４　片平地区は、平成２９年に協議会を設立して、協議を行っている。

５　白幡台地区は、平成２５年に協議会設立して、２６年に行動特性調査の実施を行ったところである。

６　平・五所塚地区は、平成２９年に協議会を設立したところである。

７　野川南台地区は、平成１６年に協議会設立して、２０年～自治会による運行を行っている。

８　長尾台Ｃ地区は、平成２０年に協議会設立して、２３年から２５年にかけて２回の試験運行を実施し、平成２６年から本格運行を開始している。

９　長尾台Ｆ地区は、平成２８年に協議会の設立をしたところである。

各協議会は、主体となって検討段階から本格運行まで取り組むことを基本としている。運行については、「一般乗合旅客自動運送事業」緑ナンバーで行っている。行政は、一定の支援の実施をしている。ソフト面は「技術的助言や走行環境の確認」「運行試験は全額市負担」「運輸局の提出書類の申請などの作成支援」「本格運行などにも支援を」

ハード面については、市が「運行開始時の車両購入費等の経費は全額補助」「買い替えは上限６００万円で５年以上経過が必要」その他においては、高齢者等の割引については補助を」

７の野川南台協議会は、「みらい号」として１０年取り組んで来ている。６７５世帯の団地で１,１９０人との事でありました。団地に住んでいる方であればだれでも無料で乗ることがでる。また、団地以外等の方も準会員登録をすることで利用できるとの事でした。利用にあっては予約はいらないが、出発時間に合わせて各乗り場に行けばよいとの事であり、運行については月曜日・水曜日・金曜日で行い２ルートあり、１ルートの距離は３．２キロ１５分程度、２ルートは１．４キロ３分程度との事でした。運営費については、自治会から５０万円や古紙回収や寄附などで行っている。運転手については、ボランティアで行い団地のみんなが支え合っている。

高石地区については、緑ナンバーでワゴン車での運行を行い平日だけ運行をしている。本数は１日１９往復で利用料は大人３００円、小児１００円、障害者・高齢者は１００円引きとサポート登録者は５０円引や６か月登録料の割引制度がある。

長尾台地区は、緑ナンバーで２９人乗りのマイクロバスで平日・土曜日運行を行い、平日は３３往復、土曜日は１４往復の運行、大人２２０円・中高１８０円・小児１１０円、スイミングクラブ方面は大人２６０円・中高２１０円・小児１３０円、高齢者・障害者等は１００円引となっている。この二つの地区は、民間の会社が運営委託を受けて行っている。

どの協議会においても満足とは言い切れないがそれぞれ採算やボランティアで取り組んでいけるか課題はあるが、取り組んで課題解決に向けて行う事が必要と感じた。

令和元年７月２５日藤沢市（カフェトークふじさわについて）

藤沢市は、平成２５年に議会基本条例を施行し、条例に基づいて議会報告会を行ってきた。平成２５年４月は、９会場で１０１人、平成２５年１０月は、４会場で５５人、平成２６年２会場で７２人と年齢層が偏り若い人が少ない、参加者が固定化や市民と議会の対立的なムードで建設的な議論がなく、色々と問題が出てきたことで大学との連携において「カフェトークふじさわ」として議会報告会を開催することとして取り組み始めた。高校生以上で申し込みをして頂いてワールド・カフェ形式を採用して、専門のファシリテーターを招き大学生にホスト役をお願いし「カフェトークふじさわ」をテーマを設けて開催することで取り組み始めた。それぞれの報告会において、提言を市長に提出する取り組みも合わせて行っている。

課題として、テーマに沿った雰囲気づくりや募集方法、継続性の検討と提言したことに対しての検証が十分できていないので検証を行う事や大学に頼りすぎていないかも課題である。私たちの議会報告会において、参加者が固定化と人数が少ないことから考えてみたいと思うが、未来に向けてのテーマを設けての報告会も議会内で議論して考える必要があると感じた。